

# 社会医学研究レター

Vol. 5 No. 2 1997年3月

発行 社会医学研究会事務局 (愛知みずほ大学人間科学部)

## アクティビズムと

### アカデミズムの統一

東京医科歯科大学 片平洸彦

今年の総会の主題は「社会医学実践の再構築」が掲げられた。このことからわかるように、社会医学はすぐれて実践的な学問である。保健・医療・福祉の各分野における日々の実践や調査において明らかにされた事実や得られたデータに基づき、理論化=科学的な「論理」を構築=すること、そして、その理論の正しさを、実践によって検証すること、こうしたことの往復、積み重ねこそが、社会医学という学問を形成し、発展させていくと言えよう。……このようにまとめてしまうと、これで終わりになってしまうので、話を多少面白くするため、敢えて表題の議論を試みたい。

社会医学分野の人々を見渡すと、どちらかと言うと「実践」を重視し、「社会医学は、社会が切実に求めている現実の問題の解決にこそ役立つべきものである」ことを強調する人と、「理論」を重視し、「社会医学は、もちろん、現実の問題の解決に役立てばそれに越したことはないが、そのようなものでなくとも、理論的水準の高さこそが重要なものであって、歴史的・国際的に評価されるものではない」ことを強調する人がいる。

今、前者をアクティビズム（行動派）、後者をアカデミズム（理論派）と名づけよう。行動派の立場から、理論派への批判を刺激的に行えば、以下のようなだろう：「理論派は、高尚な理論を振り回し、いかにも質が高いかのように装っているが、『academic』を辞書で見ると出ているように、『非実用的・非実利的』で、『現実から遊離して学究的』になっている。現実の健康問題の解決に役立たない研究などお金の無駄使いで、やめ

るべきだ」……

逆に、理論派から行動派への批判を刺激的に行えば、こうなる：「行動派は近視眼的で、理論を軽視しており、なるほど短期的にはその場の問題解決には多少は役立つかもしれないが、概して長期的・国際的視点に欠け、問題の根本的解決に役立たない。学問は理論化の作業であり、そのことのためにもお金は必要だ」……

このように対立させて考えてみると、筆者は大学の研究室に籍を置き、保健・医療・福祉の実践の場にはいないが、考え方としては、どちらかといえば「行動派」である。特に、国民の税金を使う国立大学の研究所にいてもあって、「国民が切実に求めている健康問題の解明・解決にこそ大学が寄与すべきであり、いくら質が高かろうと、現実の問題解明・解決にロクに貢献しないような研究をのんきにしているなど許されない」という思いが強かった（今でも強い）。

ところが、最近自分の身に起きたある出来事を通じて、「行動派」に徹していたら、社会（正確には、被害者・患者・国民）からは歓迎されても、自分が籍を置く当の大学からは歓迎されないと言うことを、身にしみて感じさせられることになった。そして、このことは自分一人の問題ではなく、社会医学系全体の問題でもあったと感じさせられた。

となると、今後、アカデミズムの場で社会医学系の発展をはかるためには、もっと理論派の立場に立って、長期的・国際的視点に立ち（日本語の論文など書くのをやめて、専ら英語で）、国際的に評価される業績を重ねていかなければならないということになる。

大学がそのようであるべきか否かは、最終的には国民が決める問題だが、当面、大学における社会医学の研究・教育の場がどんどん減ってしまうのは一大事であり、わが社医研も「アクティビズムとアカデミズム」の統一を真剣に考える必要がある。

## 第38回社会医学研究会総会

### 開催案内(第2報)

#### 第38回社会医学研究会企画運営会議

第38回社会医学研究会総会を次の要領で行いますので、ふるってご参加下さい。

#### 1. 開催期日

1997年7月26日(土)13時  
—27日(日)16時

#### 2. 会場

北海道大学学術交流会館  
札幌市北区北8条西5丁目、北大構内  
(札幌駅から徒歩5分)

#### 3. 参加費

一般会員 3,000円  
当日会員 3,000円(学生:2,000円)

#### 4. 事務局

〒060 札幌市北11条西7丁目  
北大教育学部健康体育科学講座内  
第38回社会医学研究会総会  
・企画運営会議事務局  
(代表:福地保馬)  
Tel & Fax 011-706-5421(直通)

#### 5. 主題:社会医学実践の再構築

これまで社会医学が取り組んできた諸課題の多くが、社会情勢の変化とともに「節目」を迎えている。21世紀を目前に、それらの一つ一つを総括し、新たな活動の展望を明らかにし、主体的条件を整えていくことが求められている。

#### 6. 企画

- 1)特別講演—節目を迎えた2大人災  
○じん肺問題の現状と課題(仮題)  
札幌協和法律事務所  
伊藤誠一 弁護士  
(北海道じん肺訴訟弁護団)
- 水俣病の40年とこれから  
(仮題)  
熊本大学医学部公衆衛生学講座  
二塚 信 教授

#### 2)シンポジウム

- 住民の立場から介護問題を考える  
—公的責任に焦点をあてて  
(司会:津田光輝・平野憲子)
- 農村社会の変貌と農民の健康  
(司会:未定)

3)要望課題:以下のうち、いくつかのテーマについては、数題まとめて「フォーラム」として展開する予定です。

- 1.薬事行政の実態と責任
- 2.今日の感染症問題
- 3.医療・福祉・教育労働従事者の健康問題
- 4.中高年労働者の健康問題
- 5.現代の出稼ぎと健康
- 6.災害と社会医学
- 7.環境・公害問題の現局面
- 8.子供の健康と体力・こころ
- 9.保健・医療・福祉・労働法制の動向
- 10.社会医学研究の継承

4)一般演題:課題にこだわらず、会員がそれぞれの研究成果の発表をする場です。会員でない方も、入会して発表して下さい。

5)自由集会:3-4ヶ所の会場を用意しています。開催予定の会員はなるべく早く事務局へご連絡下さい。

#### 7. 演題申し込み

- 1)演題申し込み方法  
同封の「演題申込用紙」に所定の事項を記入し、企画運営会議事務局宛、郵送またはファックスして下さい。
- 2)演題申し込み期限

1997年4月14日(月)

演題を受け付け後、事務局から講演集原稿用紙をお送りします。

#### 3)講演集原稿提出期限

1997年5月20日(火)

8. 宿泊・航空券:札幌市内のホテルおよび東京・名古屋・大阪各都市と札幌間の航空券の予約を希望される方は、とじ込みの申込書を北大生協または事務局宛お送り下さい。

## 丸山博先生を偲ぶ会のご案内

本研究会の名誉会員であり、研究会発足からこの会を育て発展を見守られてこられた丸山博先生が亡くなられて3ヶ月になります。現在、丸山博先生を偲ぶ会実行委員会が組織され、社会医学研究会もその構成メンバーの一員となり、偲ぶ会の準備を進めております。実行委員会より、次のようなご案内の文書が届いておりますので、ご参加を希望される方は、関西地区の社医研幹事世話人の黒田研二まで、葉書にてご連絡下さい。

\* \*

衛生学者であり、かつ食養を説く研究者であった丸山博先生が亡くなられて早くも三か月が経ちました。ご遺族は故人の遺志と言うことで、葬儀、告別式など行われず親族葬で済ませられましたので、日頃ご親交のあった皆様方とのお別れの機会もございませんでした。そこで親しかった関係者の方々が相寄り、偲ぶ集まりを開いてはということになり、実行委員会を設け、協議を重ねてまいりました結果、下記の通り偲ぶ会を催すことになりました。

関係者の方々にはご多用の折りと存じますが、ご出席いただければ幸甚に存じます。

なお、ご出席のご返事を、ひとことメッセージとともにご返送下さいますよう、よろしくお願い申し上げます。

1997年2月

丸山博先生を偲ぶ会  
実行委員長 中川米造

記

とき 1997年3月29日(土)  
午後1時半受付、2時～5時  
ところ アウリーナ大阪(旧なにわ会館)  
4階金剛の間  
天王寺区石ヶ辻町19-12  
電話 06-772-1441  
(近鉄線「上本町」下車徒歩10分)  
会費 3,000円  
会費を同封の振替用紙で事前にお送り頂きますと幸いです。

\* \*

実行委員長の中川米造先生より、社会医学研究会に偲ぶ会実行委員会へのお誘いがあり、代表世話人 西三郎先生のご判断のもと関西地区の幹事世話人の黒田が、1月20日に開かれた実行委員会に出席しました。実行委員会の構成団体は以下の通りです。偲ぶ会の会場は280名ほどの規模で、各団体より10名ないし20名ほどの参加が期待されています。ご希望の方は、下記の宛先(黒田)まで、2月末までに葉書でご連絡下さい。その際、あわせて同封の振込用紙にて参加費を振り込んで下さい。なお、偲ぶ会に参加できない方で追悼文集(関係者が綴ったもの)をご希望の方は1口2,000円(1口以上)の協力金をお振り込み下さい。後日、追悼文集を贈呈いたします。

実行委員会構成団体：アーユルベータ研究会、医学史研究会、大阪から公害をなくす会、大阪自治体に働く保健婦の集い、大阪自治体問題研究所、大阪大学衛生学・環境医学教室同窓会、大阪府保険医協会、大阪民主医療機関連合会、経済統計学会有志、社会医学研究会、新日本医師会大阪支部、進歩と革新をめざす大阪懇話会、すこやかな子ども育てる勉強会、全国養護教諭サークル協議会、日朝協会大阪府連合会、日本科学者会議大阪支部、日本正食協会、日本のコメを守る会、枚方食品公害と健康を考える会、森永砒素ミルク中毒の被害者を守る会(1月20日現在)。

連絡先：〒593 堺市学園町1-1

大阪府立大学社会福祉学部 黒田研二  
電話 0722-52-1161 FAX 0722-54-6075

### 【社会医学研究15号】

#### 原稿募集のお知らせ

この度『社会医学研究15号』に掲載する原稿を以下の通り募集いたします。

1. 原稿は20枚以上30枚以内程度(400字)でお願いします。
2. 図については、対応できるソフトにロータス123、EXCEL、MAC/DRAWなどがあります。これ以外のソフトウェアによる作成については事務局までご相談ください。

3. 文章、図表ともにプリントアウトしたものとフロッピーを事務局までご送付下さい。
4. 多数の原著論文を期待していますが、総説あるいは報告も歓迎しています。
5. 締め切りは三月末日といたします。

### 小栗史郎先生を偲ぶ会のご案内

本研究会の名誉会員である小栗史郎先生が2月26日にお亡くなりになりました。生前御厚誼を願った皆様とのお別れに堀場英也先生を実行委員として「偲ぶ会」が下記のように予定されておりますのでご案内いたします。

#### 記

とき 1997年3月23日(日)  
午前10時～12時  
ところ 小播合掌殿  
名古屋市守山区大谷町14-12  
電話 052-796-0611

#### 実行委員会連絡先：

堀場英也先生 電話 0561-39-0026  
古瀬和寛先生 電話 0573-65-2152  
FAX 0573-65-7879

### 日本学術会議会員候補者及び 推薦人の届出について

この度、日本学術会議会員候補者及び推薦人の届出を以下のように行いました。

推薦人：上畑鉄之丞先生（地域医学）  
菅原和夫先生（環境保健学）

候補者：西三郎先生（地域医学）  
福地保馬先生（環境保健学）

### 社会医学研究会関東第8回例会について

社会医学研究会関東第8回例会を開催します。

日時：1997年3月20日（木、祝日）

記念講演；午後1時30分～午後2時30分

本間 慎 先生（日本環境学会会長・

日本科学者会議代表幹事）

「深刻度を増す環境問題とその克服の道—特にゴミ処理とダイオキシン汚染について—」

演題発表；午後2時30分～午後5時

（終了後懇談会）

場所：東京医歯大難治疾患研究所

5階ゼミナール室

会費：500円（懇親会は別）

主題：社会医学の必要性と有効性

昨今、社会問題化している健康問題をキーワードで一歩あげただけでも薬害エイズ、O-157、狂牛病、インフルエンザ、介護保険、保健所統廃合…など社会医学が解明し、解決に寄与すべき課題はたくさんあります。従って社会医学の必要性は益々高まっていると考えられますが、問題が激化・深刻化しているということは、それだけ社会医学の有効性が厳しく問われているということでもあります。諸問題の被害者や住民・国民に真に役立つ現実の問題を有効に解明するような社会医学の報告が期待されます。

〒101 千代田区神田駿河台2-3-10

東医歯大難治疾患研究所情報医学研究部門

（臨床薬理） FAX 03-5280-8071

片平 洵彦

## 「社会医学研究」第14号 正誤表

1. 目次の「一般演題」は以下のように区分します：調査報告（斉藤、谷田）、研究ノート（関谷）、論説（三栄）、原著（志渡、北原）

2. 北原照代ほかの論文の図・表が印刷原稿から抜けていました。次号に全文を掲載する予定です（次ページ参照）。

3. 同じく北原照代ほかの論文の第2著者は、埴田和史が正しいお名前です。著者におわびします。

4. 79頁本文にある表の1、表の2を別記のように追加します。

5. 最終頁の枠の中の「発行者」は西三郎の誤りです。

6. 以下、本文中の誤植・訂正を記します。頁数、左右、上（下）からの行数、誤→正の順です。

1. 左下14、一種→一連
3. 上2、Fiftyth →Fifties
3. 右下18、開放→解放
4. 左下4、培菌→黴菌
4. 右下20、出してのですね→出したのですね
11. 上13・15、exporiences →experiences
- 11.上13、concerning→concerning
11. 上14、Irsitute→Institute
11. 上14、Goaernment→Government
11. 上15、core→care
11. 上15、for away→far away
11. 上19、IRARACHI→IGARASHI
11. 上20、actioty→activity
11. 上21、Elenentary→Elementary
12. 右上10、想いたく→思いたく
14. 左上4、もうら→もらう
15. 左下3、湾曲→弯曲
16. 右上15、とうい→という
20. 左上9、利潤追及→利潤追求
20. 左上5～6、国際的課題解決→国際的課題を解決
21. 左上8、極限→極言
22. 左上23、厳しく→厳しい
22. 右下25、急速へ→急速に
25. 右下4、ものう→ものを
26. 左上17、被災外→被災地外
30. 左下19、党力→投力
31. 左下16、混乱→混在
33. 右上7、だい災害→大災害
42. 右上14、図2、図3→（削除）
45. 上4、Actval→Actual

45. 上6、Manegement→Management
47. 右表3.の説明、どのよう→どのような
49. （英文2行目）communityとSomeの間に：を入れ、problemsの次にonを入れる
54. 左下14、資格取得者が→資格取得者の
55. 右上3、introducruon→introduction
- 56.左下9、退学→大学
57. 右上6、取り組み方→取り組みが
- 58.左下8、ための→ため
58. 右下10、trainiing→training
- 58.右下7、inditute →institute
- 62.右上20、業者携わって→業者が携わって
- 63.左上12、健康保健→健康保険
- 63.右下2、喚起→換気
- 64.右下19、司会→社会
- 69.上10、特定科学物→特定化学物
- 69.下2、ダラインダー→グラインダー
- 73.上11. appeal→appeal
- 73.上13,mather →mother
- 73.上16. criticizing→criticizing
- 73.上19、Appointys→Attorney
- 73.上19、executory directorは初めに書き、カンマ（,）を入れて、Attorney group …と続ける
- 73.左下14、攻撃的→攻勢的
- 76.右上19、連携して→連帯して
- 77.右上3、スモンの会→兵庫スモンの会会員
- 78.左下23、断ちますと→立ちますと
- 78.左下9、いきたい→おきたい
- 78.右下16、止血すべきだ、→止血すべきだ」
- 79.左上13、資料の4番→資料
- 79.左上21、協調→強調
- 79.左下9、たいと→たと
- 79.右上8、クリオ製剤にする→クリオ製剤で治療する
- 79.右上11. 投与する方が→投与するのが
- 79.右下19、論文に→論文・講演録に
- 79.右下2、過半数近く→半数近く
- 95.上4、reserch →research
- 95.上5、peticipant →participant
- 99.上4、teachsrs→teachers
- 103.上7. WATANBE →WATANABE
- 109.上5、infraction→infarction

表1. 対象血友病A患者の出生時期別・重症度別にみた調査時点の状態

(片平ほか：1992～93年調査)

出生時期 〔出生年〕	血友病重症度	小計	調査時点の状態					
			非感染	感染				感染の有無不明
				AC	ARC	AIDS	死亡	
全血輸血時代 〔1957年以前〕	重症	27	12	10	2	1	0	2
	中等症	8	5	0	1	0	0	2
	軽症	2	2	0	0	0	0	0
	不明	4	0	1	0	0	2	1
全血輸血時代 〔1958-66年〕	重症	10	4	4	0	0	1	1
	中等症	6	2	4	0	0	0	0
	軽症	1	0	1	0	0	0	0
	不明	4	2	0	0	1	1	0
AHG・AHF の時代 〔1967-77年〕	重症	15	6	7	1	1	0	0
	中等症	14	4	6	0	0	0	4
	軽症	2	2	0	0	0	0	0
	不明	2	0	2	0	0	0	0
非加熱濃縮製剤 の時代 〔1978-85年〕	重症	13	9	1	0	0	0	3
	中等症	2	2	0	0	0	0	0
	軽症	3	2	0	0	0	0	1
	不明	1	0	0	1	0	0	0
加熱濃縮製剤の 時代 〔1986年以降〕	重症	5	3	0	0	0	0	2
	中等症	4	2	0	0	0	0	2
	軽症	0	0	0	0	0	0	0
	不明	0	0	0	0	0	0	0
	計	123	57	36	5	3	4	18

表2. 対象血友病B患者の出生時期別・重症度別にみた調査時点の状態

(片平ほか：1992～93年調査)

出生時期 〔出生年〕	血友重症度	小計	調査時点の状態			
			非感染	AC	ARC	感染の有無不明
全血輸血時代 〔1951年以前〕	重症	1	1	0	0	0
	中等症	3	2	1	0	0
	軽症	0	0	0	0	0
	不明	1	1	0	0	0
全血輸血時代 〔1952-71年〕	重症	4	1	1	0	2
	中等症	3	0	1	0	2
	軽症	1	1	0	0	0
	不明	2	0	1	0	1
非加熱濃縮製剤 の時代 〔1972-85年〕	重症	5	3	1	1	0
	中等症	0	0	0	0	0
	軽症	0	0	0	0	0
	不明	0	0	0	0	0
	計	20	9	5	1	5

第38回社会医学研究会演題申込書 しめ切り：4月14日

Fax 011-706-5421

演題名			
種類 (○で囲んで下さい)	一般演題	要望演題 (要望課題番号：)	
演者名 (所属) 連名の場合は、発表者名の前に○をつけて下さい。			
要旨：			
-----			
-----			
-----			
連絡先	住所		
	氏名		
	Tel.		Fax. <input type="text"/>

事務局使用欄

演題番号		会場		日時	日 am pm 時 分
講演集原稿用紙発送		月	日		
講演集原稿受け取り		月	日		